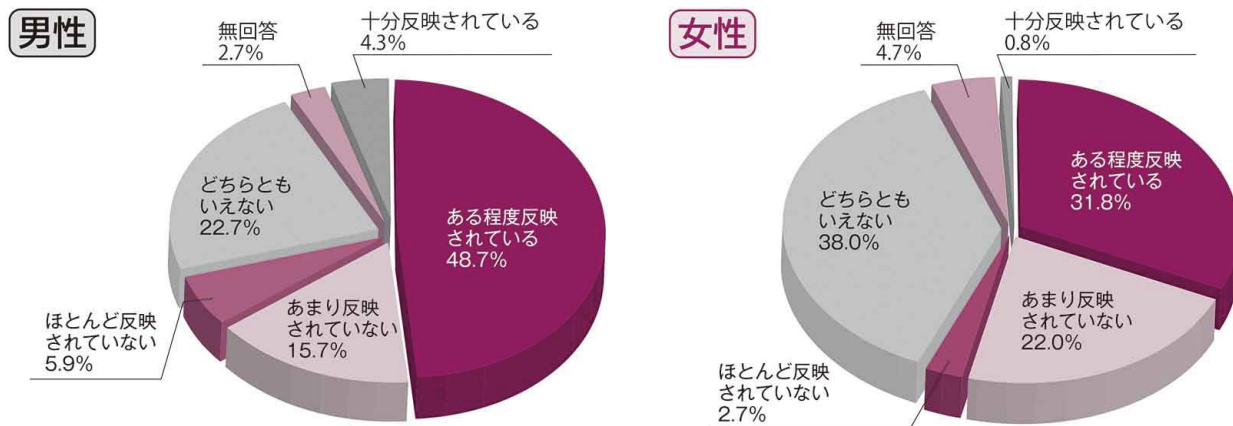


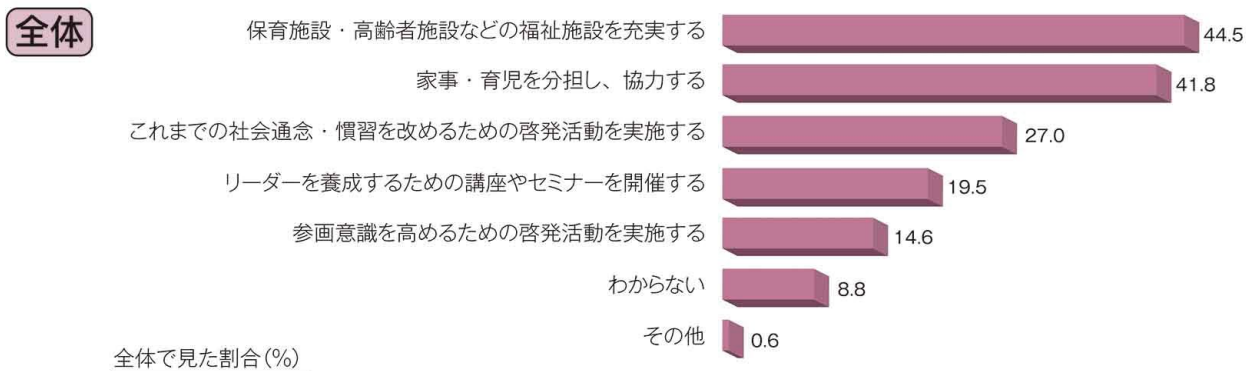
6. あなたは、地方自治体(県や市町村)などの施策について、女性の意見や考え方がどの程度反映されていると思いますか？



男女共に「ある程度反映されている」と答えた人の割合が高くなっています。

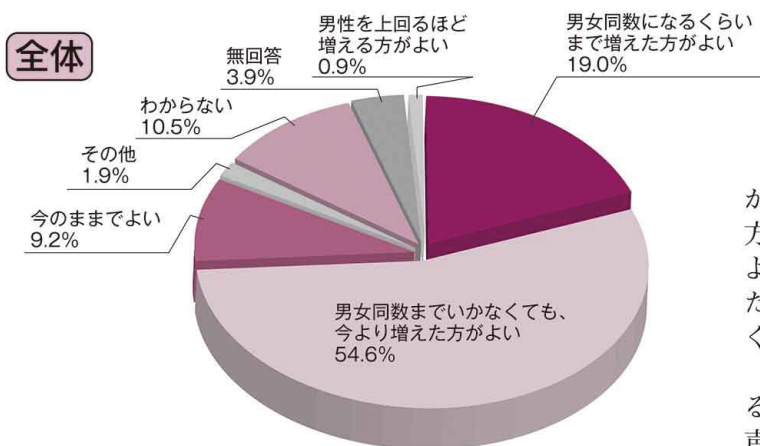
しかし、男女それぞれの「十分反映されている」と「ある程度反映されている」の割合の合計については、男女間で20.4ポイントの差が開いています。女性の方が反映されていないと感じているようです。

7. 社会活動や地域活動で、女性がリーダーになって計画作りや方針を決める場に「参画」するためには、どのようなことが必要だと思いますか？（最大2つまで選択できる複数回答）



全体では「保育施設・高齢者施設などの福祉施設を充実する」と答えた人の割合が44.5%と一番多く、次いで「家事・育児を分担し、協力する」が41.8%、「これまでの社会通念・慣習を改めるための啓発活動を実施する」が27.0%という順番になっています。

8. 現在寄居町では、政策決定の場である審議会などの女性委員の割合は12.9%です（平成25年4月1日現在）。町の女性委員数について、あなたはどのように思いますか？

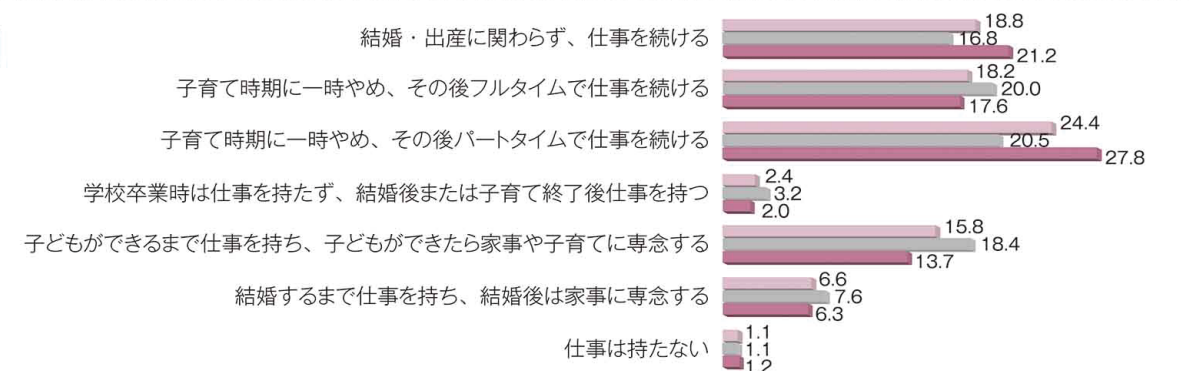


女性委員数は「男性を上回るほど増える方がよい」、「男女同数になるくらいまで増えた方がよい」、「男女同数までいかなくても、今より増えた方がよい」の合計が74.5%で、増えた方がよいと考えている人の割合が非常に高くなっています。

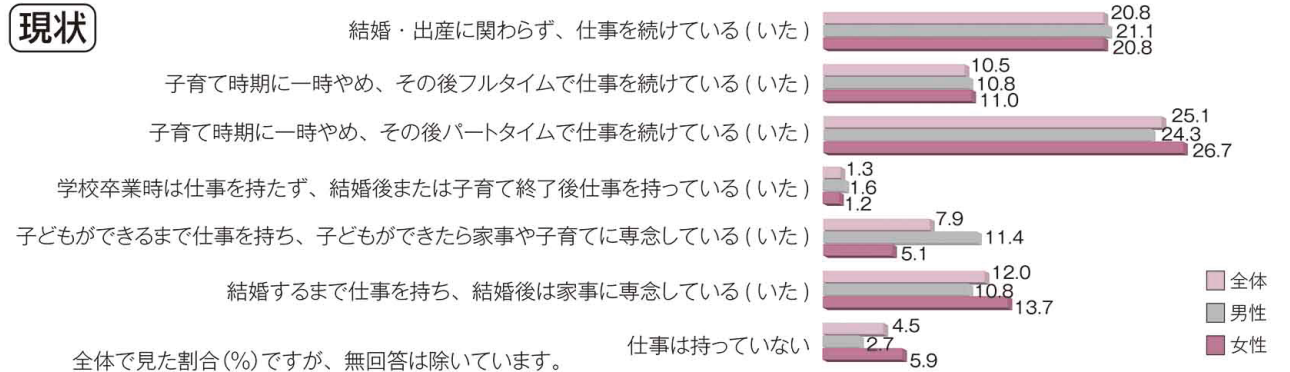
その他の回答としては「男女の数にこだわることなく、適任者になってほしい」と望む声がありました。

4. 女性の働き方について、理想はどうあるべきだと思いますか？ また、実際にはどうですか？

理想



現状

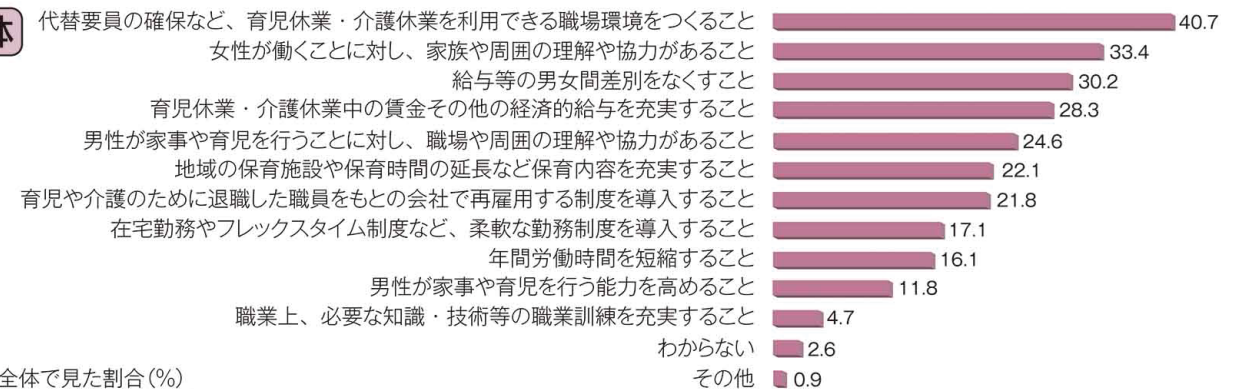


男性の現状では「子育て時期に一時やめ、その後パートタイムで仕事を続けている(いた)」が24.3%、「結婚・出産に関わらず、仕事を続けている(いた)」が21.1%という回答です。理想では「子育て時期に一時やめ、その後フルタイム」と「子育て時期に一時やめ、その後パートタイム」が20%台で、ほとんど変わらない結果になりました。

女性の場合、理想と現状はほとんど変わらず「子育て時期に一時やめ、その後パートタイム」と「結婚・出産に関わらず、仕事を続ける」が多くなっています。今回の調査から、女性の仕事に対する意欲や周囲の期待の大きさがうかがえます。

5. 男女が共に仕事と家事の両立をしていくためには、どのような条件が必要だと思いますか？（最大3つまで選択できる複数回答）

全体



仕事と家事を両立するには「代替要員の確保など、育児休業・介護休業を利用できる職場環境をつくること」と答えた人が40.7%と最も高く、次に「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解や協力があること」が33.4%、「給与等の男女間差別をなくすこと」が30.2%の順に割合が高く、前回調査で3番目だった「育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的給与を充実すること」が4番目になりました。労働環境や育児環境のさらなる整備を求めていることがうかがえます。

また、前回調査と同様、2番目に女性の仕事に対する家族等の理解・協力を求める声が多いのが特徴で、給与制度・再雇用制度改善よりも優先度が高いという結果になりました。